

こんにちは 婦人会です

猛暑から一転、10月並みの気温に一時ほっとしたのですが、今週はまた暑さが戻って来ました。ここ数日の気温の変化に少々風邪気味な編集人です。先日、20日の土曜日に団地の夏祭りがありました。提灯に明かりが灯り老若何女が輪になって踊る輪の中に、小さな子供たちの浴衣姿があまりに可愛くて思わず笑顔になってしまいました。人出も多く賑やかな夏の夜のひと時でした。

～婦人会・暮らしのエッセンス～

先日、友人から「過ぎゆく夏と、秋のお知らせ。旅に出



たくなるおまじない」なる手紙と1冊のパンフレットが届きました。折角のご厚意ですので、パンフレットを片手に空想の旅をしてみました。行先は長野県木曾郡木祖村・宮ノ越宿・藪原宿・鳥居峠を抜け奈良井宿まで。まずは宮ノ越宿から、木曾義仲の所縁の地で「義仲館」には、義仲の一生が日本画で描かれていて、資料も多く残されています。藪原宿は、鳥居峠越えに備えて一夜をとる旅人で栄えた宿場。中山道と、野麦・飛騨への道を分ける追分でもあり、木曾十一宿中もっとも賑わい馬籠や妻籠宿をしのぐ大きさであったそうです。そして、江戸時代旅人を泣かせる中山道屈指の難所鳥居峠。江戸末期には皇女和宮が降嫁のために通過した歴史のある峠も、いまは石畳の遊歩道に復元され、道端には芭蕉をはじめとする俳人、歌人の句碑や石仏が数多く建てられて、散策に訪れる人たちで賑わっています。無事奈良井宿に着きました。「懐かしきふるさと中山道を歩く木曾路の旅」でした。



藪原宿 お六柳の間屋さん

桜台婦人会

平成23年8月24日

第115号